

令和2年度第2回四條畷市総合戦略協議会 会議録

日 時	令和2年11月2日(月) 11:00~12:00
場 所	市役所本館 3階 委員会室
出席者	石関委員(会長)、上村委員(副会長)、小西委員、中川委員、林委員、宮田委員、中野委員
欠席者	石井委員
事務局	藤岡総合政策部長兼魅力創造室長、笹田田原支所長兼田原地域スマートシティ担当参事兼田原支所課長、川崎魅力創造室主任、銭谷魅力創造室事務職員
議 題	<p>1 開会</p> <p>2 議題 次第1 総合戦略への施策及び事業の追記について 次第2 国の動向と本市の今後の対応について 次第3 その他</p> <p>3 閉会</p>
配布資料	<p>① 次第</p> <p>② 座席表</p> <p>③ 資料1 (新) 総合戦略【改定】</p> <p>④ 資料2 (旧) 総合戦略【改定】</p> <p>⑤ 資料3 けいはんな学研区域(田原地区)における地域主体の持続可能なまちづくり。</p> <p>⑥ 資料4 地方創生推進交付金「society5タイプ」の概要</p> <p>⑦ 資料5 企業版ふるさと納税</p>

(文中敬称略)

事務局	<p>1 開 会</p> <p>それでは、定刻となりました。皆様方には、お忙しいところお集まりいただき、誠にありがとうございます。</p> <p>本日の出席委員7名、欠席の委員が1名でございます。四條畷市総合戦略協議会規則第三条第2項の規定に基づき、委員の過半数</p>
-----	---

	<p>にご出席をいただいておりますので、会議が成立することをご報告いたします。まず初めに事務局側の職員を紹介させていただきます。</p> <p>総合政策部長兼魅力創造室長の藤岡でございます。</p> <p>魅力創造室主任の川崎でございます。</p> <p>本日の案件の関係職員として、田原支所長兼田原地域スマートシティー担当参事兼田原支所課長の笹田でございます。</p> <p>最後に私、魅力創造室事務職員の銭谷でございます。どうぞよろしくお願いいいたします。</p> <p>それでは石関会長よろしくお願いいいたします。</p>
石 関 会 長	<p>はい、それでは只今から令和2年度第2回四條畷市総合戦略協議会を開会します。事務局、本日の資料の確認をお願いします。</p>
事 務 局	<p>本日の資料については、事前に送付している資料1から5までの資料一式、本日机上の方にお配りしております、次第、座席表、委員名簿、そして資料1の差し替え版です。</p> <p>事前に送付させていただいた資料1に修正が生じたので、お手数ですが、本日机上にお配りしております右上に「差替え」と記載があるものに差し替えをお願いいいたします。</p> <p>なお、資料が揃っていない方、いらっしゃいますでしょうか。よろしいでしょうか。</p> <p>それでは、以降の進行を会長にお願いしたいと思います。会長よろしくお願いいいたします。</p>
石 関 会 長	<p>2 議 事</p> <p>はい。それでは次第に入る前に、四條畷市総合戦略協議会の条例第4条第2項に関する金融機関の関係者として「りそな銀行」四條畷支店長が後退されたことに伴い、開原（かいほら）様に代わり、石井様が新たに委員として委嘱されました。本日、石井委員は都合により欠席となっておりますので、報告させていただきます。</p> <p>また、本日は委員にご就任されてから初めて会議にご出席される委員の方もいらっしゃいますので、ご紹介させていただきたい</p>

<p>事務局</p>	<p>と思います。</p> <p>まず、四條畷市総合戦略協議会条例第4条第3項に規定する産業経済団体の関係者として四條畷青年会議所理事長の林様でございます。よろしくお願ひいたします。</p> <p>次に、四條畷市総合戦略協議会条例第4条第4項に規定する労働に従事する者として宮田様でございます。</p> <p>初めての方もいらっしゃると思いますので、委員の方々をご紹介させていただきます。</p> <p>まずはじめに私、大阪電気通信大学の石関と申します。よろしくお願ひいたします。</p> <p>副会長、上村様です。</p> <p>枚方信用金庫の小西様です。</p> <p>あと、楠公町会会長の中野委員です。</p> <p>四條畷市商工会事務局の中川委員です。</p> <p>どうぞよろしくお願ひ申し上げます。</p> <p>会議に入ります前に、この協議会の趣旨につきまして、事務局から簡単に説明をお願いします。</p> <p>はい、それでは着座にて失礼いたします。</p> <p>今回初めてご出席される委員の方もいらっしゃると思いますので、この地方創生及び本協議会についての簡単なご説明をさせていただきます。</p> <p>これにつきましては、全国的な課題であります人口減少克服と地方創生をあわせて行うことによりですね、将来にわたって活力ある日本社会を維持することをめざし、国において2014年12月に「まち・ひと・しごと創生法」が施行されました。地方創生とは、東京一極集中を是正し、地方の人口減少に歯止めをかけ、日本全宅の活力を上げることを目的とした一連の施策をいいます。</p> <p>「まち・ひと・しごと創生法」に基づき、国においては、「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン（令和元年改定版）」及び第2期「まち・ひと・しごと総合戦略」が策定されております。「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」では、2060年に1億人程度の人口を確保するための中長期展望が示され、「まち・ひと・しごと総合戦略」では、将来にわたって「活力ある地域社会」の実</p>
------------	--

	<p>現、「東京圏への一極集中」の是正を趣旨とした基本目標や施策の方向性、目標などが示されました。</p> <p>また、「まち・ひと・しごと創生法」では、全国の各自治体においても「地方の人口ビジョン」及び「地方版まち・ひと・しごと総合戦略」を策定することが努力義務とされ、それを受け本市におきましても、2015年10月に「四條畷市人口ビジョン」及び「四條畷市総合戦略」を策定し、その後「四條畷市総合戦略」につきましては、2018年9月に改訂を行ったところでございます。</p> <p>現在の「四條畷市総合戦略」では、「親子がいきいき暮らせるまち」、「働きたい」を応援するまち、「もっと知りたい、ずっと住みたいまち」を基本目標とし、それに基づく各種関連施策とKPIを設定しております。本協議会におきましては、総合戦略の策定や改訂の際に委員皆様から専門的なご意見をいただくとともに、計画策定後の現在は、総合戦略に掲げる目標の進捗管理を行っております。</p> <p>地方創生及び本協議会について、これまでの経緯を中心に簡単にご説明させていただきました。説明は以上でございます。</p>
石 関 会 長	<p>はい、ありがとうございます</p> <p>ただいまの説明に関して、ご質問等はございますでしょうか。よろしいでしょうか。</p>
事 務 局	<p>それでは次第に沿って会議を進めます。まず次第1 総合戦略への施策及び事業の追記について、事務局から説明をお願いします。</p> <p>はい、それでは総合戦略への施策及び事業の追記についてご説明をさせていただきます。ここからは資料1から4までを使用いたします。</p> <p>前回の協議会でご説明させていただきましたが、本誌の東部地域に位置する田原地区におきまして、これまで交通や買い物等の地域課題を検討してきており、そういった地域課題について ICT 技術を用いて解決を図るスマートシティをめざすという考えのもと、今年度、内閣府「未来技術社会実装事業」に応募しました</p>

ところ、国からの事業の採択を受けることができました。

事業の概要につきましては、資料 3 をご覧ください。「けいはんな学研区域（田原地区）における地域主体の持続可能なまちづくり」と題しまして、自動運転車の導入や買い物・配送支援、都市 OS 整備といった事業を想定してございます。

次に、資料 4 の地方創生推進交付金（Society 5.0 タイプ）の概要と書いております資料をご覧ください。先ほどの内閣府「未来技術社会実装事業」を進めるにあたりましては、地方創生推進交付金の活用を検討しておりますが、交付申請にあたりましては市の総合戦略の中に当該事業を位置付けている必要があると、国から聞いてございます。

しかしながらですね、現行の本市の総合戦略においてはスマートシティに関連する事業は掲載していないため、この度、総合戦略を大きく変更するのではなく、こういった事業を現計画に追記する形で対応できないかと考えてございます。ここまでが、前回の協議会でご説明させていただいた内容でございます。

そこでですね、前回会議終了後、事業の追記内容を庁内で検討のうえ、案を作成しております。これが資料 1 と 2 でございます。この資料 1 と 2 をですね、見比べていただきたいと思っておりますので、左側に資料 1 「差替え」と書いてある分の資料 1 を左側に、旧の資料 2 と書いてあるものを右側に、お手元に並べていただきたいと思っております。変更点につきましてはですね、総合戦略の全体像の基本目標 2 の 「働きたい」を応援するまち の一番下のですね、「施策と事業」の枠の部分で、旧の部分では（3）産業資源の活用で終わっておりましたが、新の方ではその下に（4）未来技術の実装①ICT 等を活用したスマートシティ化の推進（自動運転、買い物支援、都市 OS 設備等）と追記してございます。これは先ほどの資料 3 の「けいはんな学研都市における地域主体の持続可能なまちづくり」で掲げた事業を具体的に記載する案となっております。あの、ちなみにですね、資料 1 が差替えということで、本日、差替えしていただいておりますが、あの先ほどの一番（4）の未来技術社の実装の一番下の都市 OS 整備等の、この「等」が抜けておりましたので、元の部分は、この「等」がなかったんですけど今回差替えということで、この自動運転とか買い物支援、都市 OS 整備だけではなくてですね、今後さまざま出てくるかもしれない、ということで「等」という形で今回差し替えという形で修正させていただいております。説明としては以上に

	<p>なっております。</p> <p>裏面ですね、裏面の方もご覧ください。これも先ほどと同様に施策と事業の（３）のところを一行下に追記し、（４）未来技術の実装として事業の①ICT等を活用したスマートシティ化の推進（自動運転、買い物支援、都市 OS 設備等）という形でこの行をですね、追加するような形で修正して総合戦略に続けたい、と考えております。</p> <p>説明としては以上でございます。委員の皆様からのご意見、ご質問等ありましたら、意見交換をさせていただいたうえで、本日はですね、この追記内容を確定させていただきたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。</p>
<p>会 長</p>	<p>はい、ありがとうございます。</p> <p>ただいま、事務局から説明がありましたとおり、総合戦略への施策及び事業の追加につきまして、委員の皆様からのご質問、ご意見等ございませんでしょうか。いかがでしょうか。</p>
<p>事 務 局</p>	<p>会長すみません、ちょっと補足説明で事務局の方から。</p> <p>資料 3 の内容についてももう一度概要を説明させていただきます。今回内閣府の事業でありまして、けいはんな学研区域における地域主体の持続可能なまちづくりということで、未来技術社会実装事業の方の採択を受けております。この事業というのは、今後 5 年間の中で実装をめざすものでございます。</p> <p>実装を目指す事業の内容でございますが、左手に書いているように、左手の中で 3 つございまして、1 つ目は自動運転の導入・運行、2 つ目が買い物・配送支援、3 つ目が都市 OS の整備・運用とサンドボックスの利活用支援ということでなっております。</p> <p>こちらの方、具体的な絵になるんですが、右手にあるように 1 つが田原地域というのは起伏が結構ございます。その中で今後、免許返納される方等がでてきた場合に、田原地域の中でも自由に移動ができるような形ができないかということで自動運転の導入・運行ということで考えております。</p> <p>今の技術でいいますと低速なモビリティ、非常にゆっくりしたスピードの自動運転というものを想定しております。買い物支援についても同様で、まずは田原地域の中につきましては、ちょう</p>

	<p>ど田原の中央部にアカカベ薬局さんがございます。ここに来るまでもご高齢の方にとっては、起伏のある所を移動するには免許返納した後は非常に厳しいというのがございますので、その買い物支援の中で自動配送、もしくは将来的にはドローン等が使えたらなどということ考えております。その発展形としまして四條畷全体の中で、四條畷の商店街との連携など、将来的に考えていけたらなどと考えております。</p> <p>3点目がそれらの技術を実現する上では都市基盤の整備ということで通信事業の整備等を考えている内容とさせていただきます。</p> <p>以上、簡単ではございますがこの資料3の補足説明とさせていただきます。</p>
石 関 会 長	<p>ありがとうございます。</p> <p>ただいまの説明を交えて、ご質問等ございますでしょうか。</p>
中 川 委 員	<p>すみません、わかったらでいいんですけど、田原地域の平均年齢というか、住民さんの平均の年齢ってだいぶ上がってきてるんですか、やっぱり。</p>
事 務 局	<p>すみません、今手元に平均年齢はございませんが、高齢化率で言いますと市全体が確か高齢化率が26、もしくは27ぐらいだったかと記憶しております。田原地域の方は今それより5ポイントほど少ないんですが、だいたい21%というふうになっております。まだまだ若い、市全体で見た中で見れば若いんですが、その1つの要因として、まちづくり、田原台の方がまちづくり、まち開きがあったのが平成2年度に、まち開きがあって約だいたい30年くらいになってきているので、今後高齢化率が上昇してくる可能性もある、という風に考えております。</p>
石 関 会 長	<p>ありがとうございます。他にどなたかご意見ご質問等ございますでしょうか。</p>

事務局	<p>小西委員にお伺いしたいんですけども、こういう事業を進める中での、例えば、今田原の地域の方でコンソーシアムという形で企業さんとかも入ってもらって、協議会的に立ち上げてやっていってるんですけども、金融機関さんとして、こういうスマートシティといいますか、こういう方との関わりといいますか、できるようなことって何かあるんですかね。</p>
小西委員	<p>そうですね、私の知る限りでは北河内7市ではこういう事業は初めてやと思うので、これまでのスマートシティといえば、どちらかといえば駅前を中心とした集約型のスマートシティというのが今までやってた分だと思うんですけども、確かにこの自動運転とか、ドローンを使ったりとか、どちらかと言えばドローンなんかはもっと過疎地というか地方というか、極端にいったら、島とかそのようなところしか想定していなかったの、我々金融機関として何ができるかといわれると、まだまだこれから検討させていただく部分かなと思うので、例えば具体的にこういうことが一緒にできませんかというご提案をいただければ、それはそれでもう十分検討というか、我々も基本は連携協定を組ませていただいているので、ご協力させていただくことについては何ら問題はないと思います。まだまだ新しいことなので、少しちょっと実感が沸かないのが本音でございます。</p>
事務局	<p>すみません、ありがとうございます。</p>
石関会長	<p>他にどなたかございますでしょうか？</p>
小西委員	<p>すみません、逆に例えば、予算ってどのくらいつけていただけているのでしょうか。</p>
事務局	<p>実はこの内閣府の未来技術社会実装事業といいますのは、直接予算というのが今ございません。</p>

	<p>その中で今回、地方版総合戦略、四條畷市の総合戦略を策定する中で、資料1資料2のあるような形で、まずは総合戦略に明記するということをさせていただきますと地方創生交付金の方で獲得が可能になってくるということで、またそこには申請の審査等はございますが、そういう形になってきます。</p> <p>この予算等につきましても、令和2年度については、まだ予算措置はしてない状況であるんですけども、3年度以降ですね、国からの交付金等を見据えて、車の自動運転だけでも実証実験で何千万ってかかるんですけども、そういったものについてもしっかりと国の交付金等をとっていかないとですね、なかなか市の財政では厳しいところがありますので、獲得に向けて進めていきたいと思っております。</p>
小西委員	<p>ちょっと余談なんですけどね、先月の前回第一回会議の後に私も聞いて、帰り田原台を覗いてきたんですね。アカカベさんの店舗の中も拝見してきました。正直に申し上げますとやっぱり地域の方が高齢者の方も数名おられましたけれども、お買い物するにはちょっと何というか品数がないというか、そういう状況かなと思いましたので、例えばそういう企業さんに協力していただく場合であれば当然補助金というのか支援金というのか、それがないと、赤字覚悟でやっていただくという前提では続かないと思う、少し工夫が必要なのかなという風に正直感じました。長いこと行ってなかったのが久しぶりに覗いてきたのでちょっと時間とって申し上げました。</p>
石関会長	<p>ありがとうございます。 他にどなたかございますでしょうか。</p>
中野委員	<p>今現実と言う田原台なんかは、買い物に行かれるのは向こうの白庭台に行かれる方の方が多いですよ、あっちの方とか生駒市内に行かれる方とか。</p>
事務局	<p>そうですね、平成29年度に調査した時の実態では、奈良県の</p>

	<p>生駒市の方に白庭台も含めて、行かれる方が多いというのは1つございます。今回10月からコミュニティバスがイオンの方にもできたりして、そちらの方にも行かれる方、あと楠公商店街の方にも行かれる方、まずはアンケートの中で楠公商店街にもいかれる方も数は少ないですけども、いらっしゃるといのが1つと、今回イオン行きのバスが出たことでこの四條畷のエリア内で買い物したいという方も声は聞いておりますので、もちろん奈良の方とも連携しながら、それとこちらの西部地域とも連携しながら地域の発展をしてきたいという風に考えております。</p>
<p>中野委員</p>	<p>昔、確か何年前までですかね、スーパーありましたよね、1件大きいのが田原台、あれが結局撤退したということは、商圈としての魅力がない場所だという風に思うんですけどね。そこにもってきて、こういうのを持ってきても、もともになるものがないのに、どこを基地としてドローン飛ばすんだとか、どこをめざして自動運転で買い物に行かせるのか、というのが最初だと思うんですよ。だから、商圈として商業スペースを、なんとか誘致していただいて、そこにまず四條畷にわざわざこっちまで来るのではなくて、田原台での中のコミュニティだけではなしに、商圈としての田原台があってもいいような気がするんですけども。</p>
<p>事務局</p>	<p>仰る通りで、もともとアカカベさんのあったところについては、近商ストアさんがございました。その後、賃料の採算性の問題で撤退された。その後、アカカベさんが今入っていただいて、実施されているというのが今現状でございます。</p> <p>この10月、9月末でちょうど今の中央にあるアカカベさんが入っていただいているところについては、アカカベさんが建物を購入されたのと、土地についても事業用定期借地ということで本格的に本腰を入れてあのエリアとして何か考えていきたいという風に考えていただいているので、一つはエリアの中の商圈をどうしていくかというのは、コンソーシアムの中で考えていきたいという風に思います。</p> <p>まだまだ、ちょっと田原のエリアの中の例えば、市役所に今回コミュニティバスが行かなくなりましたので、グリーンホール田原、田原支所に行くにも館内の移動については自動運転というの</p>

	<p>を1つの方法としてございますし、あと小学校が1小1中ということで、エリアが非常にたくさん広いこともありまして、例えば北の方の方から南の方の小学生の方が、今一緒に合流するというのもなかなかむずかしい状態もありますので、その中でまずは実証実験させていただいて、それで実装可能ということになりましたら運行させていただくと。それが四條畷全体の中で他の地域にも波及すればという風に考えております。</p>
石 関 会 長	<p>はい、ありがとうございます。他にどなたかございますでしょうか？はい、お願いします。</p>
宮 田 委 員	<p>在宅でのリアルな買い物感覚ということですけど、ネット環境が整っていない高齢の方とか、そういう方が一番買い物なんかは困ってると思うんですけど、そういう方ってネット環境が整っていないことが多いと思うんですけども、それはどういう感じでしょう。</p>
事 務 局	<p>お答えします。今仰るように、ご高齢の方、ネット環境が整備されていない方がたくさんいらっしゃることも認識しております。一方で田原地域について、特に田原台を中心としたところについては、KCN（近鉄ケーブルネットワーク）の中で実はもう事業線がひかれているところも非常にたくさんございまして、たとえば有線テレビとかそういう中の既存の施設を使いながらリアルな買い物、Tele Presence ロボットとかセットボックスと言いまして、テレビ上に地域のセットボックス、ちょっと技術的なことになるんですけど、機械を入れますと通信ができるような形にもできるという風に伺っておりますので、ネット以外の通信事業、有線テレビ等も活用しながら今検討しているところでございます</p>
石 関 会 長	<p>ありがとうございます。他にございますでしょうか。</p>

上村副会長	<p>先ほど、この事業に関しては非常に夢のある話ですし、成功するようなことができれば本当に良いことかも知れませんが、なかなかハードルも高いことも事実かな、という風にも思います。</p> <p>先ほど内閣府からのとりあえずこの提案をして、内閣府から、国の方から予算としておりてきた場合ってというようなことを想定しての考え方となつてまいりますと、これが実際に実装ということになって、そうするとですね、それが本当に実りになるかどうかというようなこと、その時の例えば、国で補助金みたいな形でもらった場合、それだけで賄うことがとりあえずはできるのかどうか。</p> <p>実際に四條畷にとっての、とりあえずの初期段階の金額が本当に必要なくいけるのかどうか、というのがちょっと気になる部分がございます。</p>
事務局	<p>はい、実証実験の段階については、地方創生交付金の中で補填というふうに聞いております。</p> <p>この事業費というのが、地方創生交付金の仕組みとしまして、交付金として事業費の2分の1が入りまして、2分の1は特別地方交付税で算定という形で事業については実施できるという風に考えております。そのあと、これを実装することが目的でございます。いつまでも補助金を頼った状態で事業を実施するということになると、市の財政も圧迫するということなので、そこについては慎重に事業を推進しながらお金の面も考えていきたいという風に考えております。</p> <p>例えば、今買い物支援の部分で言いますと、部分的には田原地域の田原支所の方では今キャッシュレス化の推進も行っておりまして、まずは行政の窓口のキャッシュレス化とか、あとはご高齢の方でもキャッシュレスができるような形、ということで講座も今開いて地域の方皆さんがまずはスマートシティに向けた取り組みができるようにということで考えておりまして、市の財政を圧迫するようなことは決してないような形で事業を推進していきたいという風に考えております。</p>
石関会長	<p>はい、ありがとうございます。</p> <p>他にどなたかございますでしょうか。</p>

<p>事務局</p>	<p>すみません、ちょっと追加で、先ほどの費用面ということですね、仰っていただきましたように国からの交付金等ですね、十二分に活用していきたいというのはあるんですけども、市の持ち出し等もですね、やっぱりいくらか出てくるとは思います。</p> <p>ただですね、今、市としても交通なんかでバスなんかで、掛けてます費用とか様々な費用の初期投資をしてもですね、ランニングとしてどうなのかというようなことの計算もしていかないといけないのかなというようなこともございますし、あとですね次の説明にも繋がってくるんですけども、如何に国とか市だけのお金だけではなくて、第三の企業の方々の応援をもらっていくのかということで、あとでも説明します企業版ふるさと納税といったような制度を利用するとか、そういったことも検討できたらな、と考えてございます。</p>
<p>石関会長</p>	<p>はい、ありがとうございます。</p> <p>はい、お願いします。</p>
<p>小西委員</p>	<p>もう1点いいですかね、この田原地区ってね、明らかに四條畷からいうと山の向こうなんで、我々からしたらアクセスの問題ですね、別の地域みたいな感じがするんですけど、まだあのエリアってまだ開発の余地ってあるんですかね。民間なのか、公団、都市整備公団でしたっけ。が持っていて、例えば民間に払い下げて、まだまだ住宅が建つ余地がまだまだあるのか、はたまたもうあのエリアではあまりもうないのか、どっちなんですかね。</p> <p>近鉄で行くエリアはね、白庭台も含めて、がらっと変わっていつてますよね、私も最近久しぶり行ったらえらい変わっているな、と思ったんですけども、あれの延長線になるので、交通が別に近鉄に流れて行ってもいいんですけど、四條畷市の田原地区の人口・世帯数はまだ今後も伸び続けるのか、はたまたもう頭打ちになっているのかって、どうなんですかね。</p>
<p>事務局</p>	<p>UR(住宅都市整備公団)いわゆる今URの方の事業用地というの</p>

	<p>は既に売却が終わっているような状態でございます。今でいいますと9000、約9000人弱の人口が住んでいるのが今の状態が今後もキープできるかという風に考えておりました、今後、劇的に伸びるといのはちょっと今のところ開発地がもうないので、今のところは現状の9000人という風に考えおります。</p>
<p>石 関 会 長</p>	<p>はい、ありがとうございます。 他にどなたかございますでしょうか？ いいですか僕から1つ。この資料を見てですね、感じたのは近未来、5Gが基本なと思うんですけども、現状で5Gのまだ基地局の整備がそんなまだ進んでいない状況で、各キャリアがやっているのがまず都市部ですよね。市街地、都市部と田原は住宅地なんですけど、それで優先的に田原に引いてもらえるのかどうか、がないと多分非常に難しい、その辺の交渉とかってどうなるんですかね。 お願いします。</p>
<p>事 務 局</p>	<p>5G、確かにキャリアさんが持っている5Gと地域の5Gということで、例えば事業自体を別の方が持って、5Gっていう敷設の方法もございます。ただ、この5Gを敷設するのが先なのか、地域課題を解消するうえで5Gがどうしても低遅延の技術が必要になるような、例えば高速の自動車を運転する場合などとか、あと遠隔する場合などは5Gがどうしても必要になってくるのですが、電波が先かニーズの中の本当に必要な現地のハードが必要なのかという所がまだ定まっておきませんので、すぐさま5Gを設置することは考えておりません。ただ、総務省の方については、その5Gも含めまして、あらゆる別の補助金という申請もございますので、それはこの事業の推進状況を見ながら、決定していきたいという風に考えております。</p>
<p>石 関 会 長</p>	<p>はい、ありがとうございます。 他にどなたかございますでしょうか、よろしいでしょうか。 それでは、本件についてはこれで終了します。 続いて、次第2国の動向と本市の今後の対応について、事務局か</p>

<p>事務局</p>	<p>ら説明をお願いします。</p> <p>それでは、国の動向と本市の今後の対応ということで、本日は企業版ふるさと納税制度の活用について共有させていただきたく、ご説明させていただきます。資料まず5をご覧ください。</p> <p>企業版ふるさと納税制度とは、ということなんですけれども、市外に本社を置く企業が自治体に寄附をした場合に、法人関係税の控除が受けられる制度でございます。企業から自治体への資金の流れをつくり、地方創生に資する事業に活用することを目的としたものでございます。</p> <p>制度自体は以前から存在しておりましたが、令和2年度の税制改正において、より活用しやすい制度となるように見直しが行われており、制度自体の期限も令和6年度までと延長をされました。資料5の上段の「改正のポイント」として囲っている部分に見直しの内容が書かれております。大きなものとしたしまして、1つ目のチェックのところの、税額控除の割合が9割まで引き上げられた点がございます。もともと、通常の寄附であれば寄附額の3割が損金に算入できることとなっているところ、令和元年度までの企業版ふるさと納税を活用することで6割まで引き上げる制度でございましたが、令和2年度である今年度からは、国の制度改正により、さらに控除額が増え、9割の控除を受けられるようになりました。例えば、企業さんが自治体へ1000万円の寄附をした場合、最大900万円の法人関係税が控除され、実質的な企業負担額は100万円となって、企業にとっても寄附メリットが大きいものとなっております。</p> <p>また、資料5の下段にあるとおりですね、この度、新たに企業版ふるさと納税の人材派遣型という制度も追加されました。企業の専門的知識・ノウハウを有する人材を自治体に派遣していただき、その人件費を含む事業費への寄附をもって、企業版ふるさと納税の対象とするものでございます。自治体といたしましては実質的に人件費を負担することなく外部人材を受け入れることができ、企業さんといたしましては派遣人材の人材費相当額を含む経費の最大9割の税の軽減を受けることができるとされております。</p> <p>いずれにつきましても、国としましては、東京などの大都市に集中している本社が納める税金を地方に企業からの寄附という</p>
------------	--

	<p>形で全国に分配することが狙いとされておりまして、市外に本社を置いている法人が対象となっております。</p> <p>本市におきましても今後、これら企業版ふるさと納税の活用を積極的に行いたいと考えておりますが、これらを受けることができる要件といたしまして「地域再生計画」なるものの認定を国から受ける必要があります。その準備を進めてまいりたいと思っております。</p> <p>国の地域再生計画の認定は、年に数回、時期が決められておりまして、次回募集は今年の12月の予定となっております。資料5の上段の「改正のポイント」2番目のチェック欄にありますとおり、総合戦略の抜粋・転記による申請・認定が可能となっておりますので、この12月募集に、先ほどの田原地域でのスマートシティについての地域再生計画と、総合戦略全体として幅広い事業を対象とした形での地域再生計画を合わせて作成することとしてございます。</p> <p>国から地域再生計画の認定を受けられれば、総合戦略で読み込める事業、例えば、子育て家庭の支援や質の高い教育の推進、地域経済の好循環、四條畷の魅力発信といった分野に関連する事業に関して、企業からの寄附金や人材の受け入れといった形で、企業版ふるさと納税を受けることができるようになります。今後はこういった制度を活用して、総合戦略に沿った施策をより強力に推進してまいりたいと考えております。説明は以上です。</p>
石 関 会 長	<p>はい、ありがとうございます。ただいま、事務局から説明がありました企業版ふるさと納税制度の活用につきまして、委員の皆さまからご意見、ご質問等ございますでしょうか。</p>
中 野 委 員	<p>よろしいですか。この寄附を呼びかけるにあたって何をもって、四條畷に寄附していただくメリットがあるかということ、どう格差をつける、要するに税制にいれたら9割だから納得、横並びですよね、条件的には。そうするとなんで四條畷に寄附をもらえらるっていただくというメリット、企業に対してのメリットはどういったことがあるつもりでしているのかと思っております。</p>

事務局	<p>そうですね、あの9割というものにつきましては、普通の寄附ではなくて企業版ふるさと納税の特性となっておりますので、まずはどこの自治体にするにしても企業さんとしてはメリットはあるのかな、と考えてございます。</p> <p>そのうえで仰っていただきましたように四條畷を選んでいただけると、ということが一番大事かなと思っております、その点につきましてはですね、やはり四條畷市の方で今取り組んでいる、こういった子育ての関係であったり、スマートシティの関係であったり、そういった教育の充実であったり、そういったことについてしっかりと発信の方をしていって総合戦略の中で位置付けていますよ、ということをお伝えすることがやはり大事なかなと考えているところでございます。</p>
石関会長	<p>はい、ありがとうございます。 他にどなたかございますでしょうか。</p>
中川委員	<p>企業の人材の派遣ですけれども、地方公共団体等への「等」とあるんですけれども、これは主には市役所さんですかね？</p>
事務局	<p>そうですね、これも始まったばかりの制度ですので、まだちょっと詳細にはわかっていないところもあるんですが、主に市町村ということで聞いております。</p>
石関会長	<p>はい、他にどなたか。 お願いします。</p>
林委員	<p>青年会議所の林です。 多分、過去の表彰の事業をちょっと見ていますと、事業内容というよりはちょっとイベント的な事業が大臣表彰とか、そういったところが取っていると思うんですけど、そういったところで多分スマートシティとかやりたいところはめっちゃわかるんですけども、もっとなんかこの巻き込んだ、地域一体を巻き込んだも</p>

	<p>のにしないと、結構寄附ですかね、してもらえないのかな、と思いました。以上です。</p>
事務局	<p>はい、ありがとうございます。そうですね、やはりその効果と いいますかね、そういったものが市だけではなくて地域全体で いうところはすごく重要なかと思っておりますので、そういったプロ ジェクト等もですね、何かご意見ご提案等ございましたら、また よろしくお願ひしたいと思ひます。ありがとうございます。</p>
石関会長	<p>はい、ありがとうございます。他にどなたかございますでしょ うか。いかがでしょうか。</p> <p>はい、よろしければ、本件についてはこれで終了とさせていた だきます。続いて、次第3その他について、事務局から説明をお 願ひします。</p>
事務局	<p>それでは事務局から、今後の予定についてお伝えさせていただきます。 今年度の協議会は本日で終了となりまして、次回協議会 は来年度、令和3年度の開催を予定しております。</p> <p>総合戦略に定める重要業績成果指標・KPIの令和2年度実績の進捗 確認を含むいくつかの案件を想定しております。</p> <p>開催時期につきましては、来年の6月から7月ごろになるかと思 ひます。時期が近づいてまいりましたら、委員皆様に日程調整 のご依頼をさせていただきますので、よろしくお願ひいたします。</p> <p>最後に、本日の会議録につきましては、後日、事務局から案を 送付させていただきますので、内容について確認いただき、指定 させていただく期日までに修正点等がありましたら、ご連絡をお 願ひいたします。</p> <p>会議録につきましては市ホームページへの掲載を予定してお ります。説明は以上でございます。</p>
石関会長	<p>3 閉 会</p> <p>はい。ありがとうございます。ただいま事務局から、説明があ</p>

	<p>りましたが何かご質問ご意見等ございますでしょうか。</p> <p>それでは只今をもちまして、令和2年度第2回四條畷市総合戦略協議会を閉会します。皆様どうもありがとうございました。</p>
--	--